

事務事業名		JR大船渡線復興事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登録事業 <input type="checkbox"/> 合併建設計画登録事業	
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間	
	施策名	交流連携を支える交通・情報ネットワークの充実			
	基本事業名	公共交通機関の利便性維持と利用促進		単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 平成 24年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 07 01 02 12	
所属	部課名	商工港湾部企業立地港湾課		総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	
	課長名	佐々木 義久			
	係名	港湾振興係	電話 0192-27-3111		
	担当者	山岸健悦郎	内線 117		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
・JR大船渡線復旧に係る事務全般。 ・被災したJR大船渡線の復旧等の協議の場として設置された「JR大船渡線復興調整会議」への出席。 (平成23年7月19日に第1回会議開催。以降平成26年2月19日の第6回会議まで開催。) ・JR大船渡線代替手段等を協議する「JR大船渡線公共交通確保会議」を開催。 ⇒平成24年7月13日に第1回会議開催。BRTによる復旧について検討し、平成24年10月4日の第3回会議において、BRT復旧の受け入れを決定。 ・平成25年3月より復旧したJR大船渡線BRT利用促進にかかるとの事務。 ・平成27年度においては、JR大船渡線復旧に係る議論を加速させるため、国が主催となり大船渡線沿線自治体首長会議が開催 ⇒平成27年6月5日に第1回会議開催。7月24日の第2回会議において、JRよりBRTによる本格復旧が提案される ⇒これを受けて、市では「JR大船渡線の今後のあり方を考える懇談会」を開催し意見集約を行い、市の方針を決定 ⇒12月25日の第3回大船渡線沿線自治体首長会議において、BRTによる本格復旧が決定 事業費は、上記業務に係る旅費、委託料、賃借料として支出される。					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア	大船渡線沿線自治体首長会議への参加 回
JR大船渡線等復興に係る諸会議等への出席		イ	JR大船渡線の今後のあり方を考える懇談会開催 回
大船渡魚市場前駅の設置に関するJR東日本への要望		ウ	
JR大船渡線の今後のあり方を考える懇談会の開催			
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
JR大船渡線復興に係る会議等への出席		名称 単位	
BRT利用促進に係る事業の実施		カ	大船渡市の人口 人
		キ	東日本旅客鉄道株式会社 社
(2) 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		ク	
市民、観光客		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
東日本旅客鉄道株式会社		名称 単位	
(3) 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		サ	BRT一日平均乗車人員(大船渡市内5駅計) 人
大船渡線BRTを多くの人に利用してもらう		シ	
大船渡線BRTのさらなる利便性の向上を図る		ス	
(4) 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
利用者の利便性に配慮して運行する。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度							
		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円		133	37	1,320	408	85
		事業費計(A)	千円	0	133	37	1,320	408	85
	人件費	正規職員従事人数	人		1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間		70	50	50	50	50
		人件費計(B)	千円	0	280	200	200	200	200
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	413	237	1,520	608	285
⑤活動指標	ア	回		2	2	1	3	2	
	イ	回		1	3	3	4	1	
	ウ								
⑥対象指標	カ	人		39,117	38,871	38,712	38,349	38349	
	キ	社				1	1	1	
	ク								
⑦成果指標	サ	人			277	334	公表後記載	公表後記載	
	シ								
	ス								

事務事業ID	1525	事務事業名	JR大船渡線復興事業
--------	------	-------	------------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	JR大船渡線が被災し、平成24年度からJR大船渡線の本復旧に向けた議論の場としてJR大船渡線復興調整会議が開催されたことによる。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	東日本大震災後、JR大船渡線が不通となり、マイカー利用への転換が進んだことなどから、BRTによる仮復旧後の利用者数は、震災前の鉄道利用者数に比べて減少している。 平成26年2月の第6回以降、JR大船渡線復興調整会議が開催されず、議論が停滞しており、こうした状況を打開するため、平成27年6月5日に第1回大船渡線沿線自治体首長会議が開催される。7月24日の第2回会議において、JR東日本からBRTによる大船渡線本復旧が提案され、第3回会議において、大船渡線のBRTによる本格復旧が決定
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	市民等から、JR大船渡線の早期本復旧を求める声が挙がっており、市ではJR東日本からのBRTによる本格復旧の提案を受けて、「JR大船渡線の今後のあり方を考える懇談会」による意見集約や市議会からの提言等を踏まえて、BRT受入れの方針を決定。 今後はBRTのさらなる利便性の向上として、ルートの延伸や新幹線駅までのアクセス等の要望が寄せられている。

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 高齢者や、学生・生徒などマイカーを利用できないいわゆる交通弱者と呼ばれる人たちの生活基盤の確保につながっている。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ JR大船渡線は、沿線住民、交通弱者と呼ばれる人たちの日常生活における貴重な足として無くてはならない公共交通機関であり、廃線することは生活基盤の崩壊につながるため。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 住民を対象とすることは適切である。 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 広報等での利用促進・周知活動の継続 大船渡線BRTの利用促進につながる効果的な事業や、さらなる利便性の向上を図るための取組を実施
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 大船渡線BRTのさらなる利便性向上のための取組ができなくなる可能性がある。 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ JR大船渡線の鉄道復旧に関する事務事業は他にない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 現在支出している金額は、必要最小限であり、これ以上削減することはできない。 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 現在の事務は、必要最低限のものである。 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 会議出席が主な支出内容であり、公正である。 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

事務事業ID	1525	事務事業名	JR大船渡線復興事業
--------	------	-------	------------

### 3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としてJR大船渡線復興事業		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
<table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>平成25年3月2日より鉄道の仮復旧としてのBRTの運行が開始された。 平成27年12月25日の第3回大船渡線沿線自治体首長会議において、BRTによる本格復旧が決定した。持続性の確保や利便性の向上等について今後協議を行っていく。またBRTの利用者数は、震災前の鉄路利用者数に比べ減少している状況にある。大船渡線BRTが将来にわたって持続可能な交通手段となるよう、市民自らがJR大船渡線利用促進の意識を持つことが充用であり、その醸成を図っていく必要がある。</p>													
① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																								
<p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input type="checkbox"/> 現状維持 事業のやり方改善 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善 )</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>JR大船渡線のBRTによる本格復旧にあたり、今後持続的に地域の公共交通を確保していくためには、大船渡線BRTの利用率向上が不可欠であることを市民の方に理解してもらうため、利用促進に向け周知等に努める。 併せて、ルート延伸や新幹線駅までのアクセス等、JR大船渡線BRTのさらなる利便性の向上を図る。</p>		<p>左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上	コスト			削減	維持	増加	向上			●		維持				×	低下		×		×
成果	向上	コスト																								
		削減	維持	増加																						
向上			●																							
維持				×																						
低下		×		×																						
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																										
<p>マイカー利用の増加、人口減少・少子化の進展等により利用数は減少傾向が続いており、単なる市民の方たちへの周知や呼びかけ等だけではなく、より効果的な対策を講じることにしても検討する必要がある。</p>																										

### 4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	(職名) ※原則として施策の主管課長 企業立地港湾課長	(氏名) 佐々木 義久
-------	--------------------------------	----------------

#### (1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- 記述不足でわかりにくい  
 一部記述不足のところがある  
 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)  
 一部に客観性を欠いたところがある  
 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果		(3) 評価結果の根拠と理由																								
<table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>平成27年12月25日の第3回大船渡線沿線自治体首長会議において、BRTによる本格復旧が決定した。 JR大船渡線BRTの利用促進については、利用者の要望を踏まえ、JR東日本に要望し具体的な対策を講じるにより、成果向上の余地がある。</p>													
① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(5) 改革・改善による期待成果																								
<p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 事業のやり方改善 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善 )</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>今後、JR大船渡線本復旧の事業主体であるJR東日本が示す方針を踏まえて、BRT利用者をはじめとした市民の方々の意見を伺いながら、今後のあるべき姿の検討を行う。 当面は、BRTの利用促進にむけて、新駅設置等についてJR東日本に要望していく</p>		<p>左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上	コスト			削減	維持	増加	向上			○		維持			●	×	低下		×		×
成果	向上	コスト																								
		削減	維持	増加																						
向上			○																							
維持			●	×																						
低下		×		×																						

### 5

#### (1) 行政経営推進会議等での指摘事項